

72 戦時日誌 315

自昭和19年12月至昭和20年3月

昭和二十三年五月防犯研究所戦史室貼付

648P

功績調査資料

大東亞戦争

1610/17

海軍功績調査本部

51

7764

1680

軍極秘

海軍功績調査部長殿

第三十戦隊機密第二〇號ニ

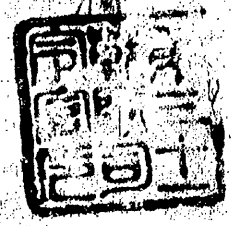
自昭和十九年十二月二十日
至昭和二十年一月三十一日

第三十戦隊戦時日誌

北支作戦(一部)

第三十戦隊司令部

五月二日送付



- 一 經過
 - (一) 敵情
 - (二) 我軍情
 - (三) 作戰指導
 - (四) 摩下艦船所在行動
- 二 人員情況
- 三 令達報告等
- 四 參考
- 五 作戰經過概要

(終)

昭和十九年十一月三日 第三戰隊戰時日誌

一、經過
敵情

十月中旬ロイテニ上陸セル敵攻略部隊ハ友軍ノ猛反撃ニ依リ相當ノ損害ヲ蒙リ乍ラモ其ノ後益々兵力ヲ增強基地ノ強化ヲ圖ル方次期作戰ノ準備ヲ進メ有カナル機動部隊並ニ基地航空部隊ノ支援下ニ十二月十五日ハミンドロ島ニ越ヘテ一月七日ハ呂宋カラエリナンドニ上陸愈々本格的呂宋攻略ヲ開始セリ

爾後一月中下旬ニハ機動部隊飛行機ヲ以テ数次ニ巨リ臺灣南支那佛印方面ノ主トシテ我が航空基地並ニ艦船ニ對シ攻撃ヲ加ヘタリ

右ニ關聯菲島及支那ヲ基地トスル大型機、臺灣南支那海方面ニ對スル哨戒並ニ攻撃モ漸次其ノ頻度ヲ増シツアリ尚菲島西海面台灣海峡佛印沿岸ニ於ケル敵潛水艦ノ行動ハ依然極

メテ活發ナリ

(四) 我軍情況(菲島方面)

南西方面部隊ハ陸軍ト協力第一聯合基地航空部隊ヲ以テ連續敵攻略部隊及機動部隊ニ痛撃ヲ加フルト共ニ多號作戰禮號作戰ヲ實施シテ奪回ミニンドロ島攻撃ヲ策セモ所期目的ヲ達スニ至ラス

(ハ) 作戰指導

敵カンラエルナンド上陸ト共ニ戦斗ハ概テ陸戰ニ移行セリ敵呂宋上陸軍奥地進撃ニ伴ヒ味方在菲島航空要員ハ急速臺灣方面ニ轉進ヲ要スル狀況ニ在リ

(一) 十一月上旬新ニ編制セラレタル第三十戰隊司令部(旧第三十戰隊司令部ハ十月下旬全滅)ハ一旦「マラニ」進出セモ命ニ依リ高雄ニ移轉南西方面部隊軍隊區分ニ依リ第三十戰隊司令部官ハ警戒部隊指揮官トナル

(二) 麾下兵力狀況(沈没セルモノヲ除ク)

月	日	兵	カ
十一月	二十日	315	
		434	
		434	
		520	
		520	
		310	
		434	
		733	
		296	

(三) 主ナル作戦行動

(1) 自十二月二十五日 315 機五二驅(機)一九三三空基地人員物件ヲマシカラス
 間作戦輸送ニ從事ス(158 信電令作第 158 號)

十二月二十五日	2109 2200 2700 315 ヨリ除カル
同 二十六日	109 神風野風 旗風 吳竹 汐風 朝顔ヲ敬告戒部隊ニ編入セラル
同 二十八日	315 旗風 吳竹 汐風 朝顔ハ敬告戒部隊ニ入りタル儘
一月一日	33 37 315 ヨリ除カル
同 三日	4309 509 敬告戒部隊ヲ除カル
同 九日	4309 509 敬告戒部隊ニ復歸セラル
同 二十日	5209 509 敬告戒部隊ニ復歸セラル

備考 一 右兵力中 機 十一月五日 旗風 十一月十五日 梅 十一月三日

夫々沈没 機 十一月七日 消息不明

二 記號 △ ハ 修理中 ○ ハ 軍隊區分ニ依リ一時他部隊ニ編

入サレアルヲ示ス

(2) 自十一月三日五二驅(檜樫)八生田川丸「サキヤク」ヨミラ「間護衛在
ズ」電令作第八五七號

(3) 自十一月三日五二驅(檜樫)八生田川丸「サキヤク」ヨミラ「間護衛在
要員作戦輸送セト」五二四三驅(梅)楓汐風ハ途中敵陸上機交
戦梅沈没楓中破セト爲該作戦輸送ハ之ヲ延期ス(敵警戒部隊機
密第九一七五番電)

(4) 敵艦上機ト交戦敵機動部隊高雄香港來龍襲都度所在
ノ麾下駆逐艦ハト交戦敵艦ニ相當損害ヲ與ヘタルモ我方亦被
害アリ(十一月十五日旗風沈没十一月二十一日檜中破等)

十六日當部隊駆逐艦作戦待機地ヲ基隆ト致シ度キ日南西方面
艦隊參謀長宛意見具申ス(五二機密第九一七五番電)

(5) 檜杉樫ハ十二月下旬禮疏作戦ニ参加ス

[illegible]

1991

月

主	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	十	九	八	七	六	五	四
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(ヤバラス)中

明

不

忌

朔

ラニ

ニ

ニ

ニ

雄

高

港

港

高

没

沈

高

卷

香

(卷)

香

中

(鶴)

舞

中

理

修

雄

高

港

修

全

全

沈

(吳)

中

上

上

(崎)

長

上

上

(吳)

没

詳

細

不

明

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

没

沈

司

門

雄

高

没

沈

(1) 主要職員官氏名

(十二月二十二日現在)

同	參	司令	司令	職	主要
謀	部	附	官	主務	官
少	中	大	少	官	氏
佐	佐	佐	將	鶴	岡
山	中	吉	鶴	岡	信
本	村	田	岡	信	道
壯	昇	正	義	道	名
吉					記
					事

三十一	三十	二十九	二十八	二十七	二十六	二十五	二十四	二十三	二十二
			(ヤバラス)	中	理	修			
ヒキ			明	不	息	消			
			没			花			
カレ			隆			基			
			隆			基			
ワ	雄高		隆	基					司
			没						沈
虎	雄高		隆			基			雄
			(鶴舞)	中	理	修			
			(吳)	中	理	修			
			(崎長)	上		金			
			(失)	上		金			
			没			沈			

詳

系田

明

						司	門
隆	基					司	門
		段				沈	
高	確	高	隆	基			
	(鶴舞)	冲	理	修			
		段				沈	

8

四下士官兵及其他員數(十二月五日現在)

兵科別	高電信	普電信	高暗號	普暗號	高信號	高經	計
下士官	2	2	1	1	1	1	8
兵	1	1	1	4	1	1	5
記事							

(異動)

兵科別	高電信	普電信	高暗號	普暗號	高電測	普電測	普水測	計
下士官	1	1	1	1	1	1	1	5
兵	6	6	1	2	1	4	6	18
記事	十一月三日四日三ノ於テ入隊 二名ノ中普電測二普水測三槍ニ乘艦指定							

月日	記事
一月十日	下士官一名兵五名高雄通信隊派遣
十二日	下士官一名兵二名 同 右
十三日	兵二名 同 右
〃	普暗二名無章(暗號代員)十名入隊
〃	上曹一名旧三十一戰隊殘務整理多々佐五保派遣

一月十三日	下士官一名假入隊
十四日	下士官一名兵五名(五十鈴轉勤者)假入隊
十六日	下士官一名高雄通信隊派遣
十九日	兵六名(横團轉勤者)當隊假入隊
二十日	下士官一名櫻二派遣
二十一日	下士官一名櫻ヨリ兵一名高雄通信隊ヨリ復帰々々隊高病入院
二十四日	下士官一名高雄通信隊ヨリ復帰高病入院
二十五日	下士官一名兵一名高雄海軍通信隊派遣
二十六日	下士官一名汐風ニ轉勤退隊
二十七日	兵二名高通信ヨリ復帰
二十八日	下士官一名兵四名梅ニ一時轉勤
二十九日	兵二名汐風ニ一時轉勤

1891

三令達報告

發日時	受日時	令達報告
三言三五 P 3/S	三言三五 P 3/S 總長大臣 PP 1258 P 1258	將旗ヲマニラ海軍本部ニ掲揚セリ
三言三五 P 3/S	三言三五 P 3/S 高通三主通 大和田通 (P 9/F 九五五)	當隊一七〇〇高雄西支港發 17°05'E 117°05'N 15°00' E 118°22' 經十二月二十四日一七〇〇ヲ「瀨口」着豫定 實速十五節正午位置 二十三日 18°40'E 118°05' 二十四日 14°35'E 120°10' 二十三日 二〇〇以後高雄通信系ヲ去リマニラ通信系 ニ入ル
三言三五 P 3/S	52dg	第五驅逐隊(檜樫)ハ「マニラ」入港後「カビ」カナカオ機 橋横付重油清水ヲ滿載スベシ 同所ニ於テ第九三三部隊基地物件(六噸)人員(一〇〇名)
電	無	別種

869T

二十四日三六 $\frac{P}{315}$	三十一日〇八 $\frac{P}{205}$	
$\frac{P}{GKF}$ $\frac{P}{5H}$	同 一四五七 $\frac{P}{MSB}$ $\frac{P}{PP}$ $\frac{P}{5P}$ ($\frac{P}{GP}$)	
一五二驅(檣機)マニラ着 ニミラ入港際檣コレドール燈台三九度五澤通過 中右舷艦尾ニ米ミ機雷爆發セリ 右ハ敵機數設 ル磁氣機雷疑アリ 主ル被害左通ミテ二四節以下航海ニ支障ナキモノト 認ム今次高雄入港際修理ヲ要ス ①前部機械台ニ耗後部機械台六耗遊隙ヲ生ス ②舵取機電動機取付脚ニ本切損電氣熔接ニテ 應急修理中 ③送信電磁コバ折損	梅一月十五日頃工事完了豫定	ヲ搭載準備出來次第本職ヲ指揮シ出港カヘラン 灣ニ輸送後高雄ニ回航ス

電

無

7691

三 雷 三 一 P 3/S	三 日 六 四 P NSB	三 雷 三 一 P 3/S	
P NSB P SF	同 二 〇 (P) 2YB F 高警 P 3/S	大臣、總長 (PP) 1/KF PP 3/KF P 3/S P 6/KF P 5/KF	
NSB 電令作第八五〇號ニ依リ第五三驅逐隊(檣樑) ヲ發シ二十五日〇二〇〇「マニラ」灣發 14.38 E 115.19 經テ 「カムラ」灣ニ向テ二十六日一七〇〇「カムラ」灣着豫定	NSB 信電令作第八五〇號 一九三三部隊指揮官ハ基地人員一〇〇名ヲ「カムラ」灣 ニ進出セムベシ 三三戰隊司令官(延)員ヲ輸送スベシ 通報 KEF 長官旗艦	將旗ヲ樑ニ移揚ス	ニ右舷方位盤用眼鏡破損 水轉輪羅針儀懸吊線切断

電

無

669T

三十一日 四三三 P 315	三十一日 八四〇 P 315	三十一日 三〇四 P 315	三十一日 九五五 P 315	
(P) (P) (P) (P) 13B 2YB 315	(P) (P) (P) (P) GKF 110kg	(P) (P) (P) (P) 315	(P) (P) (P) (P) 435 110kg	
要補給量約五〇噸 杉樫樵ヲ警戒部隊復帰ス	五十二驅(機)三ノ日〇七〇カラ湾發一八〇〇ヤミツク 着豫定	三十一戰隊補給ハ「ヤミツク」ニ行フ(當隊機密第三四 二三番電參照)	五十二驅(機)ヲ率カミツク湾着 13B電令作第入五號(三十一戰隊(機)ニ對テ灣着ヲ指示スルカ 機密ニ依リ補給トシ高機回航待)	正午位置 二十五日N十四度三六分 E二七度三六分 二十六日N十四度二六分 E二五度三二分 三重油搭載各艦五〇噸手配アリ
	電			無

0691

三三三〇 南西方面部 隊警戒部隊 指揮官	三三六九 P ASB	三八二五 P 參謀長
PP P 11069	生田丸 A 3/15	同二二〇二 P 1107 PP 海防3/15 2YB
南西方面部隊警戒部隊電令作第ニ號 杉樫樺六第二水雷戰隊司令官指揮ヲ受ケルニ ハクニ回航セヨ 二宙部隊五十二驅、樺ハハカニシテ於ケル燃料補給 終了後高雄ニ向テ出港ス	電令作第八五七號 警戒部隊指揮官麾下驅逐艦ニ隻乃至三隻ヲ以テ 高雄回航ニ時取止メ生田丸ヲサニヤリマシラ間護衛 ニシテ生田丸ハハ四船團ニ加入シ九日サニヤリ 着豫定	ニ警戒部隊待機位置ヲ高雄又ハ馬公トシ指揮 官所定ニ改ム ハ四船團加入中、生田丸ヲ同船團ヨリ除外 ハクニ殘置セシメラレ度 右ハ當隊ニシテ「カンバツ」間護衛實施豫定

4691

月一四三〇 月一八〇〇 GKF 参謀長 P 2YB P 2YB P 2YB	千九百三〇 同 一六三〇 P 2YB P 2YB P 2YB	P 2YB P 2YB P 2YB P 2YB
今後作戦指導参考として損傷艦情况作戦行動能否等至急報告通報あり度 損傷艦修理戦高上脱合せ逐次要員施つたり度 2YB 作戦準備断續ナラユル様取計ハ度	艦沈没作戦挺身部隊損傷主要被害状況ハ人負傷船体ハ兵器ハ機関ハ所見 一足柄ノ敵被弾炎上機衝突並ニ機銃掃射依止 小戦死四〇内准士官以上一以下敵ニ戦傷三〇(二) 四後部三五五番口ハ左舷水線上ニ米ヤ六米幅ニ米破口ヲ生シ高速時波浪侵入ス ハ中甲板工区ハ炎(後部發射管室下方)後下部電信室機械工場電氣工場破壊使用不能 四〇九八式水偵機破損縱動照準裝置ニ探照灯ニ破壊使用不能 ハ送信機短四號短五號及九〇電話三空三号ハ電三號??機械室外全部使用不能	電

- (ハ)機械室空氣壓縮ポンプ使用不能補給用蛇管
破損補給不能時機得次第船体破孔及探照
灯送信機換裝機械電氣各工場修理要ス
機械全力發揮可能ニテ當面作戰行動可
能ニテ當面作戰行動可能モ無線兵器修理
要アリ
- (ニ)旗艦任務力不適ト思考ス
三太淀(爆彈二直撃ヲ依ル)
- (イ)輕傷一
- (四)上甲板左舷前方及同處ニテ艦外員通孔
ハ一番高角砲後部ヨリ機械工場貫通一罐室
空氣豫熱器管根ニ至ル旨爆彈長廿一米經五
糧貫通孔
- (三)第五兵員室ニ破孔浸水
- (イ)機銃動力室破壊
- (ハ)一號缶使用不能
- (ニ)機械工場一部原動機及電路破壊

電

無

6691

	千九日七〇 P 28d	
	同 PP NSB YB 3/15 杉 桎 樵 50kg	一五四四
一、後櫓自動數系維器通報器切斷 二、三號電探假裝備長波短波各送信機 電波輻射不能後部白色燈信號燈使用不能 四、罐室重油庫機銃彈貫通ニ依リ火炎浸水為 一、罐全力最大速力ニ節	NSB 警三戒部隊電令作第 一號 關聯 樵杉桎行動予定左通 千九日〇九〇頃カミラン着見込ニ燃料殘額三噸 以下 ニ、之ニ要スル補給量ハ、回航可能ナルヲ目途トシ 各艦一〇〇噸ヲ限度トス 三、戰鬪並ニ作戰前被害情況 一、樵	三、左舷主蒸氣管左舷前機ニ穴 出、左舷側船体破孔閉塞及蒸氣管修理盲爆 彈除去至急修修理ヲ要ス 終末着

電

無

0041

三〇日二〇四五 P 315	三〇日八〇〇 五十鈴艦長	三〇日一〇五四 P 115B	
PP 915 大臣總長	PP 515 對潛掃蕩部隊	PP 115B 海參一部長	同 一三三〇 海參一部長
將旗ヲ櫓ニ移揚ス	宛 大海參一部長 艦政本部長 通報 海參謀長 百工工作部長 本艦應急修理 八四月上旬完成見込	115B 電令作第五一號 十二月三十日附多號作戰部隊編制ヲ解ク	三極 1) 三五耗單裝機銃一使用不能 三式投射機一毀損 2) 戰死三戰傷六 3) 其他大ナル被害ナキモ作戰前荒天ニ依リ砲戰指揮盤及方位盤各一使用不能 一式超短波受話機使用不能 足柄ヨリ借用中 4) 當面作戰行動ニ差支ヘナキモト認ム 5) 消耗彈數 284 未着

電

無

1701

三〇日二二七 南西方面部隊 警戒部隊 指揮官	PP 1KF 3KF 高警	南西方面部隊 警戒部隊電令作第二號 五三驅逐隊(檜樵)ハNSB電令作第五七號ニ依リ生田 川ヲ護衛ヲ實施スベシ 三櫻杉樵ハ本職ニ率キ一月一日サンジャク發高雄ニ 回航ス
三〇日二二五 南西方面部隊 警戒部隊 指揮官	PP 1VSB 1GF4B P 1/aB2	宛三十一特根司令官 五三驅(檜樵)生田川丸左ニ依リ行動ス 對空對潛警戒ニ関シ配慮ヲ得度 一行動豫定 三十一日〇七三〇サンジャク發三十一日一六三〇マニラ灣口着 〇七〇〇位置(緯度經度) 一日一一度七分 一一〇度五七分 二日一四度四分 一二四度〇九分 三日一四度六分 一二八度二八分 ニ地方艦所通信系出入豫定 二日〇〇〇〇道 サンゴン以後マニラ

電

無

2041

二日一九〇〇 P MSB	三日八三〇 P MSB	三日一五五 P 315
P 315 P 16F	同 一 二 三 PP GF MSB 高警 PP ZYB 1KF 315	P 19FGB M 52dg PP 9KF 11abg 高警
警戒部隊指揮官適宜麾下艦艇ヲシテサマ四 船團護衛ニ協力セムベシ MSB電令作第ハ六一號	MSB電令作第ハ六〇號 一、速ニツガ泊地ニ回航急速修理整備完了見込 一、月中旬ヲ目途トス 二、警戒部隊指揮官機宜高雄又ハ馬公ニ於テ損傷 艦修理實施ノ件差支ナシ	檳榔嶼一月一日〇八〇〇「セジャック」發左ノ豫定ニテ 高雄要港ニ回航ス 〇七〇〇ノ位置 二日一三度五七分 一一一度五三分 三日一五度三三分 一二度四六分 四日一九度四〇分 二七度四三分 五日〇七〇〇高雄南掃海水路入口着
電	電	無

レイテ方面敵大型機跳梁及味方戦闘機実効

1703

三日 五五 P NSB	三日 五五 P NSB	三日 八五 GKF 参謀長
同 一八四三 P 2YB P 3/5 (PP NSB)	同 一八四〇 1GFGB H1B	同 二二三五 PP GKF 3/5 25 P GKF 1EF 1KE
NSB 電令作第ニ號 一 四三 驅逐隊五十二驅逐隊(生田川) 護衛終了次第 ヲ警戒部隊ヨリ除キ 2YBニ編入ス 二 2YB(四航戦及戦闘航海ニ支障ニモラ除シハ準備出 末次第カムランニ 進出待機スベシ 行動豫定シ 報告スベシ 電	NSB 電令作第一號 一 輸送船團機動部隊等ノ情勢カヨリ判断シ敵ハ 旬日ヲ出ラスニテ 呂宋方面ニ對スル攻略ヲ敢テ計算ナリ 二 各部隊ハ冷静沈著ニ敵情確認ニ努メト共ニ既 定方針ニ基キ全員特攻隊員タル覺悟ヲ以テ驕敵 激殺シ以テ遺憾ナキヲ期スベシ	兵カ現情ニ關聯シ弗即方面ヨリ北島方面ニ出入 船團ハ同ニ島近海ヲ夜間突被シ晝間ハ極力同 ニ島ヨリ離隔シタル如ク行動コトニ考慮セシ度 無

四日一九三〇 524g	山日一五三五 P 2YB
同 P 2KF 1KF 5A	同 一九三七 2YB P 9KF PP VS B 通
生田川丸ヲ護衛檣樯マシラ着	2YB 信電令作第三號 2YB 足柄五戰隊(羽黒大定)第三水雷戰隊(霞朝霜初霜)ハ南西方面部隊電令作第三號ニ基キ月十日昭南出撃シソニツク泊地ニ回航待機シ各隊艦無ハ左ニ依リ行動スベシ ハ足柄大定第三水雷戰隊(霞朝霜)ハ極力工事ヲ促進戦斗力發揮準備完成支障ナキ程度ノ應急修理実施上日輸送掩護ニ基キ準備完成昭南ニ集結四五戰隊(羽黒)及ビ第三驅逐隊(初霜)ハ昭南ニ集結九日中ニ出撃準備ヲ完成 ハ第四驅逐隊五十二驅逐隊(各隊戰鬥航海ニ支障モラ除ク)ハ成ルベク速ニソニツク泊地ニ回航行動ノ豫定ヲ報告スベシ 通報 聯合艦隊司令長官 大海參第一部長

五月一八三四六日 檣 P GKF 19FGB 〇二五 一七七檣被爆航行不能 地美ミラニ九〇度八七理 樅モ被害アリ	五月一六三〇 GKF 参謀長 同 一七三二 P 3/5 T 324 PP GF 21B 大海参謀部長 情況報告アリ度 呂宋島方面情勢ニ鑑ミハ急速突入作戰ヲ 實施セシメラルコトアルベキ付準備アリ度 電	五月一六三三 檣 P GKF 19FGB 〇二〇 我地美ミラニ九四度一一理基準針路一四〇度 ニ退中	五月一六五 P MSB 同 一七五 PP GF 21B 大海参謀部長 敵攻略部今夜リミガエニ灣ニ揚陸ノ算大アリ シハ今夜同湾ニ突入敵船團ヲ攻撃スベシ	五月二二五 P MSB 同 一三四二 P 19FGB 〇二五 MSB 電令作第四號 一八五敵艦又ハ巡洋艦ヲ基幹ナル部隊三 符字脱ニ〇理北上中ナリ陸軍報 ニ五驅逐ハ戦闘準備完成後機宜西方ニ退スベシ	PP GKF 19FGB 〇二五
---	--	--	---	--	-------------------------------------

無

五三三〇五 P 315	五三三四三 P 315
口 1458	東 F 1458 2YB 通
當隊(檜杉樵)高雄二回航中 台灣方面敵機動部隊二對之 避航タ燃料	梅八十日修理完了高雄二回航兵器彈藥搭載 ニサシバクニ進出セル ニ檜杉樵ニ於テ機関ノ漏洩部 轉輪羅針儀 其他修理ニ約四日ヲ要スル見込 三杉ハ射殺テ裝置砲戰臭雷戰指揮通信裝 置電路一番砲電探水測兵器測深儀使用不能 右主軸燒損最大速リニ六節 四樵ハ罐室火火侵水為前部各種電路敷設換 設換ヲ要ス 五七九一三番重油カウ破孔使用不能最大速 力ニ節後櫓倒壞電探破壞 五檜轉輪使用不能舵取機電動機取付 電 部龜裂ヲ生シ應急修理上使用中ニ至成メ 早期ニ修理ヲ要ス 通報艦政本部長 大海參一部長

2041

六月 〇〇三〇	六月 〇三二六	〔P〕 GF 2CF 高警	〔P〕 GKF 21ch	MSB 情報通信 輸送船団第一群。三五五ヨリ三。四度一四。理 二至。戰艦一巡洋艦五驅逐艦。輸送船中型三小型 四。	二第一群空母四戰艦二巡洋艦七以上驅逐艦十六以上 第三群空母五巡洋艦五驅逐艦二。 三檣機一六。頃ヨリ「ミラ」三九四度二二理附近ニ於テ 敵大型驅逐艦ト交戦一七。七檣機被爆航行不能 機二五六沈没 四比島方面本日敵航空部隊攻撃極ノヲ緩慢 ナリ 五味方輸送艦ニ輸送船隻一艘及生田川丸第二氷 川丸各船團（一六。三。三。一）各八四航中
----------------	----------------	----------------------------------	-----------------------------	---	---

電

無

六日一三七 GF参謀長	六日一七三二 ト Sally
同六二三 P GKA 5A 322	同六二三 PP GKA 315
宛 2F 長官 1150 司令官 矢野 雪風 楓 矢野 1150 楓 1150 月中旬内海西部出撃 矢野 2000 合同 センター 豫定	檣 概 戦 闘 概 報 一五五四〇マラニ九四度一〇〇度 渾 敵水上部隊十隻 ト遭遇大型駆逐艦三隻ト交戦後避退中艦上機 来襲約三十機ノ爆撃ヲ並ニ銃撃ヲ受ケ檣直撃 彈一罐室火炎至近彈多数一七七航行不能トナル 概視界内ニアリテ奮戦中一九〇被爆重軽沈檣漂 泊中潜水艦出撃三隻夜間爆撃ヲ受ケ被害 ヲ二三〇機ノ應急修理完了三節航行可能 トナリ六日〇六〇マラニ九四度一〇〇度

二戦果 撃墜十機 不確実三機
三被害 機中輕重 檣主三被害
一 二 三 室火炎使用不能 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

出ル速力十四節

電

無

6041

七日二二三〇 P 3/15	七日一九一二 P 3/15
PP GKF 5F	P GKF 2YB
樞 杉樵 高雄着 通報 佐鎮長官	樞 杉樵 高雄着 通報 佐鎮長官 十四日杉十九日修理完次第デニシノニ進出セム 三程ニ對シ九三式三型臭雷三本補給方取計ヲ得度 通報ヲ參謀長艦本總務長 舞廠長 電 航海ニ必要ナル應急修理ヲ行ヒ兵器彈藥ヲ他艦 ニ融通十日發内地ニ回航修理セム 二程 重傷准士官二名、下士官兵四五名 無

0141

日 一三〇〇 警 〇八六 P MSB	九日 〇七三三 潮 頭	八日 一四二五 南西方面部隊 警言戒部隊 指揮官	日 一三〇〇 警 〇八六 P MSB
同日 一五四九 P 315 東 通 P 4F PP MSB	同日 一四四〇 P 21B P 315	同日 一四二五 梅 PP MSB P 21B (P 20F)	同日 一五四九 P 315 P 21B 7/109 7/109
MSB 電令作第七號 一 MSB 電令作第二號及第三號ヲ取消ス 二 MSB 戦闘準備ヲ完成リシガ泊地附近ニ在リテ待機スベシ 三 警言戒部隊ハ戦斗準備完成、高雄又ハ馬公附近	高雄港外着	MSB 警言戒部隊電令作第一號 一 梅ハ高雄自航ヲ取止メ修理完成次第速ニサシマシ ニ 進出スベシ 三 シシヤクニ於テ補充ヲ要スル彈藥、臭雷等 21B 司令部ニ速ニ請求スベシ	梅樫杉ノ戦備ヲ更ニ促進シテ合同ヲ急カシメ度
電	電	無	無

[illegible]

九月八日 P SIS	百〇二五 朝 類	十月一五四〇 P MSB
佐通 吳通 PP GF GF GF	同 〇七二〇 P GF P GF	同 二三〇九 P ZYB P SIS PSS
宛竹桐楨 通報吳佐世保各工廠長四十三驅司令 刻下情勢鑑各艦極力修理工事促進 圖 三事完了豫定知らセ 左營港内錨泊中海防艦尾代、追突ヲ受ケ 一罐右舷水線下約一米ニ及ビ幅五。糧、破口ヲ生ジ 一罐室滿水一號罐使用不可能ナルモ自力航行可能 見込(傾斜ナシ隣接劃壁補強中)	MSB電令作第一〇號 第一遊撃部隊ハ指揮官所定ニ依リ機宜行動 南方輸送路支援ニ任ズル共ニ好機比島方面敵 進攻部隊ヲ奇襲スベシ 二警戒部隊ハ指揮官所定ニ依リ臺灣海峽及呂宋海 峽方面ニ於テ敵潜水艦掃蕩ヲ行フ共ニ台灣呂 宋間作戰輸送ニ任ズベシ	電

十日一七五 A 3/15	梅 十日二一五 同 一四二五	十日一八四 P 20F 同 二二二七 A 3/15 (P NSB 梅)	
GF参謀長 戦術部部長 (GF)参謀長 補給ヲ受クベキ彈藥極 將來作戰上高雄及馬公ニ於テ魚雷及彈藥補 給ノ必然ナルト思考セラル目下同地ニ八九三式魚雷ナリ	(P QKF 5F 20F) P NSB A 3/15 十日工事完了豫定、處主蒸氣管ニ漏洩部ヲ 生シ之ガ修理ヲ要ス後三日 十五日出撃可能見込	目下臺灣行船舶多数在泊シテ處、梅高雄回航 時護衛依頼差支ナキヤ返 南西方面部隊放棄戒部隊機密第。九七四五番電開聯 梅、揚錨機不具合、所アルモ極力促進十一月中搭載 工事完了、豫定	第一輸送戰隊ハ別ニ定ムトコロニ依リ台灣、呂宋間 作戰輸送ニ任ズベシ 四潜水部隊ハ指揮官所定ニ基キ比島海面敵進攻 部隊ノ奇襲ニ任ズベシ 行動豫定ヲ報告スル共ニ關係各部ニ通報スベシ

電

無

3/5 参謀 土日 一三四一	警備部 隊 土日 一三四一	警備部 隊 土日 一三四一	警備部 隊 土日 一三四一	警備部 隊 土日 一三四一	警備部 隊 土日 一三四一	警備部 隊 土日 一三四一
(A) 1154 吳通	(P) GF P GKPF GEB	(P) GF P GKPF	(P) GF P GKPF	(P) GF P GKPF	(P) GF P GKPF	(P) GF P GKPF
宛 根 楓ハ高雄進出際當司令部用トシテ士七糧高 角砲彈藥ニ五耗機銃彈(搭載シタル限度)ヲ	宛 第一駆逐隊 汐風 準備出来次第高雄進出スベシ ニ行動豫定ヲ報告セヨ	朝顔内地回航 際タモ三七船團護衛(高雄門司 間)ニ協カスベシ	梅ハ高雄回航 際要スレバ船團護衛ニ協カスベシ	貴隊司令了解済	作戦上當隊驅逐艦ニ必要ニ付貴艦馬公出港 際魚雷八本ニ五耗機銃彈一。〇〇〇發(出来 得限度)馬公軍需部ニ陸揚シオカレ度	速ニ補充ヲ得度尚魚雷調整班進出ハ緊急ヲ要 スルモノト認ム

電

無

STATE

梅 十四日一〇二三	十四日〇六五 南方面部隊 警戒部隊 指揮官	十五日二五二 樞	十五日一〇三八 P GF	十五日一九二 A 315	十五日一九二 梅 P 20P
(P) 同 一三〇〇 NSB 20P 高 警 P GF	(P) 同 一三〇〇 舞鶴 朝顔 次官 次長 (P) 20P 高 警	同 二二二五 P GF P 315 20P	同 一四二〇 P GF A 315 海護部總司令部	同 一四二〇 P GF P 315	同 一四二〇 P GF P 315
本艦十五日一三〇〇香港發十六日早朝高雄着ノ 豫定	朝顔ハ十四日高雄發舞鶴ニ同航本修理ニ従事 スベシ右同航ノ途次夕毛三七船團ノ護衛ニ協力スベシ	九〇舞鶴着	GF電令第六〇號 夕風ハ十四日頃門司發高雄方面ニ進出三ノ戰 隊ニ合同スベシ夕風ハ右進出ノ途次海上護衛 部隊長官指揮ヲ受テ船團ノ護衛ニ従事スベシ	雄ニ同航スベシ 梅ハ作戰輸送ノ關係上修理完成次第速ニ高 當隊機密第一二二三番電取止	搭載サレ度

電

無

34

十四日二〇五 JIS 参謀	十四日一二三	竹
日 20F 梅 香港軍需部長 (高雄軍需部長)	月 〇 一 三 五 JIS	戸 戸 戸 戸 115d 9F 1P 42g
旗風型驅逐艦用十二種四號通雷彈(信管)式 及九一式時限信管)及裝藥高雄馬公方面皆 無ニシテ當司令部用トシテ梅貴地出港、際成ニシテ 多數搭載、トニ取計ヲ得度	貴機密第九一八三〇番電返 修理狀況左ノ通リ	(1)機関左舷主機械(各タービン)關聯裝置及 面舷各補助機械開放檢查並ニ修理(ニ號罐 水壓試驗並ニ修理)前機室左舷破孔及重油 修理其他一般修理相當數 (2)兵器一三五KV蒸氣タービン發電機一組長裝五 K台開放檢查發電機防震裝置新設其他 電氣兵器(各電路通信機)含ハテ取出並ニ修理 主砲全部陸揚分解、入發射管一本換裝 ニ増備若ハ新設兵器 四式射擊裝置單裝機銃十七基九三式探信 儀五型同整流器復、投射機哨信輦逆探三型
無	電	

1111

十五日 梅	十五日 梅	
同 △ 315 9F 2CF 158 20	同 △ 315 9F 2CF 158 20	
香港地区敵機動部隊空襲アリ暫ク出港ヲ見合ス	高雄地区ニ於テ空襲ノ情況知ラレ度	攻一式空三號電信機 三事完了豫定 大部ノ修理ハ一月未頃完了ノ豫定ナルモ發電機 並ニ投射機工事約一〇日程度遅ミヤ知レズ 四人員交代率約三〇%ニテ右ノ工事ニ依リ各種兵 器機関共ニ新規艦装ト殆ンド全一ノ情況トナルニ 付キ艦内整備約一週間程度必要トス 尚橋燈兵器並ニ本艦艦装以來基礎訓練未 了ノ狀況ニ鑑ミ一時第十一水雷戦隊ニ編入シ二週間 乃至三週間程度訓練ニ従事致度 然ルベク取計ニ得度
電	電	無

2141 V

十六日 一〇三〇 A 3/15	十六日 〇七五五 A 3/15	十五日 二〇五五 南西方面部隊 警戒部隊 指揮官	十六日 一〇三〇 A 3/15
P 204 梅	P 204 梅 P 204 梅 P 204 梅	P 204 梅 P 204 梅 P 204 梅	P 204 梅 P 204 梅 P 204 梅
今迄、處方面空襲を便宜出港高雄二回航 七、臺灣海峡、成ルバ、夜間通航ヲ可トス	現狀勢ニ於テ當隊待機地ヲ高雄馬公及三亞トスルハ 敵機動部隊ニ依ル敵機ノ跳梁下ニ於テ徒ニ被害 ヲ増スノミト思考セラルル處、關係各部、連絡上當司令 部ハ高雄ニ存置シ子隊ハ一時機基隆ニ待避セシメ 所要ニ應ジ高雄ニ進出作戰ヲ實施スル様致度	旗風、高雄要港内ニ於テ敵艦機群ト交戦中 十五日、四二第一第二罐室ニ敵機ノ直撃ヲ受ケ 火災百方防火ニ努メタルモ八〇〇、遂沈没セリ 戦死準士官以上ニ名下士官兵ニ〇名 重傷下士官兵十五名 戦果撃墜三機	一、梅ハ本日、出港ヲ取止メ、明十六日以後空襲状況 (三〇〇)迄ニ通知シ、高雄ニ同テ出港セヨ 二、本日台灣及澎湖諸島全域ニ亘リ敵機動部隊 隊空襲アリ、十五日高雄地區ニ於ル敵艦上機 ノ來襲時刻ハ今、トコロ〇九〇〇ヨリ一三〇〇マデ

電

無

6141

十七日一二五 参謀 (P 2P)	十六日三三五 梅 PP 3/5 9F 1/5B 42dg	十六日一九七 樞 PP 3/5 9F 1/5B 42dg	十六日八三五 P 3/5 P 3/5B 9F 1/5B 52dg	十六日一四〇二 梅 P 1/5B 9F 1/5B 42dg
一貴機密第一六四〇ニ番関聯 五耗機銃彈約二万發現在補給可能ナルモ高	本日一四五〇ヨリ一九一五迄延一五〇機連續空襲アリシ 點偵察狀況等ヨリ見テ敵航空母艦ハ香港近傍 ニアルモト認ム殘彈少シ	通報艦政本部總務部長 樞工事二月八日完成豫定	樞ハ七日夜ヨリ強ガシマツトニ向ヒタル消息不明 情況判リオラバ知ラサレ度	香港ハ〇〇ヨリニ〇〇迄敵機動部隊空襲延一〇〇 機アリ敵狀ヲ見ツ待機中 連日對空戦闘ニ依リ殘彈高角砲一割機銃三割 程度ニテ作戰ニ支障アリ高雄ニ在庫有無並ニ 在庫キ場合補給ニ関シ至急御指示ヲ得度

電

無

383

十七日二〇四三 梅 十八日八〇〇 九時參謀長	十七日三〇三 P 315				
十八日九五七 P 315	十八日九五七 P 315 P 138 P 91	十八日九五七 P 315 P 138 P 91	十八日九五七 P 315 P 138 P 91	東通 吳通 佐通 舞通 大奏通	
機宜附近、地ニ変更差支ヘナキ内意ナリ	十八日敵機動部隊空襲ナキ場合一七〇〇香港發 十九日夕刻高雄着、予定	十八日敵機動部隊空襲ナキ場合一七〇〇香港發 十九日夕刻高雄着、予定	十八日敵機動部隊空襲ナキ場合一七〇〇香港發 十九日夕刻高雄着、予定	十八日敵機動部隊空襲ナキ場合一七〇〇香港發 十九日夕刻高雄着、予定	十八日敵機動部隊空襲ナキ場合一七〇〇香港發 十九日夕刻高雄着、予定

1221

十八日二〇五 P 315	十八日二五六 P GEB	十九日一〇三七 P 1EF
梅 (P 2CF)	十九日一〇八九五 P 1EF 吳通 P 315	同日一〇四〇 神風 楓 野風 海面 PP GF GKE 内司武官 廣島 吳工廠
當方面艦上機、來襲ナシ	宛 第一驅逐隊司令 楓 通報 吳鎮長官 第三土水雷戰隊司令官 GEB 電令作第三五六號 第一驅逐隊(神風 野風)及楓ハ第一護衛部 隊指揮官指揮ヲ承ケテ一日正午迄三門司ニ 集合門司ヨリ臺灣方面迄船團護衛ニ從事 スヘシ(GF 電令作第六〇九號 關聯)	楓ヲ三日門司發モス〇船團 149 (野風 神 風)ヲ二十五日門司發ヒ 91 船團護衛艦ニ加フ 但 149 ハ基隆迄トス ニ海三四ヲモス〇船團護衛ヨリ除ク 罐管換 裝ヲナセ

40

十九日一三〇	315 參謀	二十日〇五五	大臣	二十日一〇〇	二十日一五五	9KF 參謀長
梅	同 一一五八	戰時編成関 係着信艦所	同 二一〇〇 大臣 總長	必 9KF 横鎖	同 一九五〇	シケガライ エチアゲ GF GF GF GF
當方面敵艦載機來襲ナシ	二十日附	一 驅逐隊編制中左通改定セラル 第五十二驅逐隊ノ項中ニ楓ヲ加フ (以下略)	七日着任司令驅逐艦ヲ樞ニ指定 九日司令驅逐艦ヲ梅ニ變更ス	左依リ在菲島海陸軍航空機搭乗員ノ臺灣輸送ヲ 實施スベキヲ定ニ付然ル可ク準備ヲ進ムルト共ニ充當艦名 報告アリ度	一期日一月二十七日頃敵情ヲ見テ定ム 二 東艦地ヲタリナオ(天候良好ニハバアリ) 三 陸揚地ニ高雄 四 東艦人員海軍約五百名陸軍約五百名 五 使用艦艇三ノ戰隊驅逐艦三隻	電
無						

8241

二十日 一三五五 ▽ 3/5	二十日 一三三三 南方面部隊 警戒部隊指 揮官	二十日 一六四五 ▽ 4309
同 二〇四五 竹 榎 桐 ▽ 1/5d ▽ GF ▽ GKF ▽ GEB	同 二二二八 ▽ GF ▽ GKF ▽ 5 3/5 1d9 夕風 ▽ GEB ▽ IEF 基隆在勤武官	同 一八〇〇 ▽ 3/5 ▽ P ▽ NSB ▽ 2009 ▽ 高警
一 竹機密第一四二二三番電関聯 二 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 三 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 四 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 五 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 六 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 七 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 八 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 九 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 十 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 十一 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 十二 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 十三 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 十四 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 十五 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 十六 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 十七 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 十八 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 十九 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ 二十 榎桐ハ工事完了予定ヲ速ニ報告セヨ	南方面部隊警戒部隊電令作第四號 一 四三驅梅(檜)主目高雄發對替掃蕩ヲ實施 二 シンシ基隆ニ同航作戰待機及諸訓練ニ從事ス 三 一驅夕風進出地ヲ基隆ニ改ム 四 一驅夕風ハ基隆進出以後四三驅司令指揮ヲ 五 承ケ作戰待機諸訓練ニ從事ス	梅〇九〇〇高雄着
電		無

二十日 〇九三九	P GF	二十日 二二三〇	P 31S	二十日 二二三二	楓
同 一 三 三 〇	PP GF 各領 警 大參第一部長	同 二 三 五	次官 佐領 P GF B 高警	R 31S	吳通
GF電令作第四八の號	ZYB五艦隊(31Sヲ除ク) SS 45f 2sd (内地ニ在ル艦ヲ除ク)	杉ハ高雄工作部ニ於テニ二號電波探信儀測深儀	轉輪四針義等修理中ノ處同部ニ於テハ該兵	行動予定左ノ通	シニ日。六。〇。門司發モ夕三三船團ノ護衛ニ任
ヲNSBヨリ除キ本職直率トス		器到底修理出來ザル狀況ニ立到レルヲ以テ此ノ	時期ヲ利用シニ十一日高雄發佐世保ニ回航修理		第一護衛艦隊放送通信系ニ入ル
					電

[illegible]

0741

三十一日九三三
南方面部隊
警戒部隊
指揮官

同二一〇〇
杉風
杉風

南方面部隊警戒部隊信電令作第二號
四十三驅(梅)杉八十二日夕刻(梅)八十二日高
雄發其基隆二回航スベシ

置第六兵員室破壊第六兵員室左舷水線
附近二徑約六〇。種破孔ヲ生ジ一部浸水最大
速力二〇節
(四)戦死 下士官兵二名 重傷下士官兵
二名
杉(一)至近弾数發ニ依リ射撃手裝置、二十二號
電波探信儀、二米測距儀破壊、前部彈
庫一部浸水、探信儀水中、聴音機、水雷
科指揮通信裝置一部破損、注冷ポンプ
破損、爲最大速力二〇節
(四)戦死 下士官兵二名 重傷下士官兵三名
梅戦死兵一名

電

無

二十日 一四三〇 △ 3/5	二十日 〇八三〇 △ 430g	二十日 一九五四 △ 3/5	
大臣 總長 △ GEB 3/5 10g 5F △ GF 3/5 10g 5F △ GKF 3/5 10g 5F	同 一四三五 △ GF 3/5 10g 5F △ GKF 3/5 10g 5F △ GF 3/5 10g 5F	△ GEB 1EF 120g 10g 5F △ GF 3/5 10g 5F △ GKF 3/5 10g 5F	△ GF 3/5 10g 5F △ GKF 3/5 10g 5F
將旗ヲ高雄陸上(警備府内)ニ移揚ス	430g (梅) 杉基隆着	一 南西方面艦隊機密第二。五五番電関聯 當隊充當得ル艦名四十三驅(梅)及汐風 二 杉樫(二十日)對空戰闘ニ於テ損傷目下應 急修理(内地ニ於テ本修理ヲ要ス)中ニ付 三 船團護衛中ノ楓ヲ至急基隆ニ進出 當隊編入方配慮ヲ得度	二 四十三驅(梅)汐風ハ基隆着以後作戰待機 訓練ニ從事ス 三 杉樫ハ基隆ニ於テ應急修理ニ從事ス
	電	無	46

二番目 一三〇 同 一四一。 樫	二番目 一六〇 一 PP GF NSB 高警 P 3/15	二番目 一六〇 一 PP GF NSB 高警 P 3/15	二番目 一六〇 一 PP GF NSB 高警 P 3/15	二番目 一六〇 一 PP GF NSB 高警 P 3/15
一一三。基隆着	NSB 電令第三號 一三土戰隊驅逐艦三ヲ以テAF及陸軍塔乘員其 他約六五。名ヲバタリナシ又ハアパリヨリ臺灣ニ輸 送ヲ實施ス期日一月二十八日 アパリ連綴基地ハ所定陸軍部隊ト共同前項ニ依 ル諸作業ニ全幅的協力スルト共ニ人員到着情 況ヲ其都度報告スベシ	NSB 電令第三號 一三土戰隊驅逐艦三ヲ以テAF及陸軍塔乘員其 他約六五。名ヲバタリナシ又ハアパリヨリ臺灣ニ輸 送ヲ實施ス期日一月二十八日 アパリ連綴基地ハ所定陸軍部隊ト共同前項ニ依 ル諸作業ニ全幅的協力スルト共ニ人員到着情 況ヲ其都度報告スベシ	NSB 電令第三號 一三土戰隊驅逐艦三ヲ以テAF及陸軍塔乘員其 他約六五。名ヲバタリナシ又ハアパリヨリ臺灣ニ輸 送ヲ實施ス期日一月二十八日 アパリ連綴基地ハ所定陸軍部隊ト共同前項ニ依 ル諸作業ニ全幅的協力スルト共ニ人員到着情 況ヲ其都度報告スベシ	NSB 電令第三號 一三土戰隊驅逐艦三ヲ以テAF及陸軍塔乘員其 他約六五。名ヲバタリナシ又ハアパリヨリ臺灣ニ輸 送ヲ實施ス期日一月二十八日 アパリ連綴基地ハ所定陸軍部隊ト共同前項ニ依 ル諸作業ニ全幅的協力スルト共ニ人員到着情 況ヲ其都度報告スベシ

三五月二四〇 P 3/5	三五月一〇三二 朝 顔	三五月九三〇 桐
$\left[\begin{array}{c} P \\ GF \\ 430g \end{array} \right] \left[\begin{array}{c} P \\ GF \\ 140g \end{array} \right]$ $\left[\begin{array}{c} P \\ GF \\ 120g \end{array} \right]$	$\left[\begin{array}{c} P \\ GF \\ 3/5 \end{array} \right] \left[\begin{array}{c} P \\ GF \\ 3/5 \end{array} \right]$ $\left[\begin{array}{c} P \\ GF \\ 3/5 \end{array} \right]$	$\left[\begin{array}{c} P \\ NSB \\ 3/5 \end{array} \right] \left[\begin{array}{c} P \\ NSB \\ 430g \end{array} \right]$ $\left[\begin{array}{c} P \\ GF \\ 3/5 \end{array} \right]$
在菲島航空機搭乗員、臺灣輸送作戰上是非共必要ニ付、楓船團護衛ヲ中止シ、二十七日中ニ基隆ニ進出セシメラレ度、當隊機密第二二九五四番電関聯	舞鶴着	本艦修理工事二月末日頃完成ノ予定
實施期日ヲ八月二十日ト予定ス 指揮官、前項驅逐艦ニ對スル掩護並ニ哨戒ヲ實施スベシ		

0041

二番一高 P 315	AF 参謀
口 口口 /99957 GF GE13} GKF}	同 一九五〇 多カラ空 基地 (高通) P 315
貴機隊第二四六番電ニ依ル航空機要員ハ 湾輸送ハ當隊驅逐艦現狀ニ鑑ミ當隊機隊 二二九五番電参照ハ楓ニ十七日中ニ基隆到着セ バ一月三十日實施第一航空艦隊司令部ハ協議済	機隊第二四六番電ニ依ル航空機要員ハ 一呼出符号「トリナオ」假設通信隊クモ六高 通クモ五輸送隊トリノ梅トリ一楓トリニ 夕風トリニ ニ通信要領 (ハ)假設通信隊開設セバ「シケガラオ」基地經 由施行セシメ同地着高通ト直接連絡ス (ロ)「シケガラオ」ハ協力假設通信隊相手ト連絡時 間通信又ハ受信ノミシ假設通信隊送信力 不足ノ場合中継ニ任ズ (ハ)假設通信隊ハ「トリナオ」受信放送受信ノ萬全 ヲ期ス

電

無

49

2841

315 参謀 千合二三〇	千旨二三〇 南西方面部 隊敵警戒部隊 指揮官	朝顔 千七百三九	楓 千七百〇五
東通楓汐風 高通 315 P GKFI 43dy	同上 上43dy 楓汐風 GKFI GKFI GKFI 警基在武宜	艦船本部總 務部長人事 局長 上315 P GKFI	同上 315 P GKFI GKFI GKFI 所在
今次在菲島航空要員輸送ニ於ケル輸送隊四十三 驅(梅)楓汐風ノ通信機要左ノ通 輸送隊各艦高通ニ放常時配員 輸送隊三十一戰隊旗艦(高通)ハトリナオハ仮設電信	四十三驅(梅)楓汐風八月二十九日午前中ニ高雄ニ 進出セヨ	三月二日頃舞鶴出撃ノ可能ノ見込ナリ	〇七三〇基隆着

電 無 電 無

二日一三六 同日四〇 P 3IS P GP GKH P 高警	三日二三〇 大臣 總長 P GF 5A IFF P 佐鎮櫻杉	二十廿七三〇 P 隆在勤武官 P 3IS P GF P TKB	二十九日一七五 南西方面部隊 警察隊部 指揮官
所間ハ高通地方艦所系(四三九。KG)ニ依リ直接通信 本通信ハ輸送隊ノベトリヲ才突入中時間前ヨリ實施ス 當隊(梅)楓シ風一七〇基隆發二十九日〇八〇高 雄着ノ予定	第三十戰隊電令第一號 杉樫ハ底急修理終了後伍世保ニ面航本修理ニ從事 スベシ右面航途次基隆ヨリ東引島附近迄夕モ四〇 船團護衛ニ協カスベシ	四三驅(梅)楓シ風高雄着	送込左ニ依リテ之ヲ實施ス 輸送隊 四三驅(梅)楓シ風 同右指揮官 四三驅司令 輸送隊行動予定

無

[illegible]

2241

三十一日二五 南方面部隊 警務部隊指揮官	三十一日二五 P 315 高警入海参 部長(参)面	敵情鑑ミ當部隊機密第二九二七五番電ニ依ル 輸送隊行動予定ヨ一日繰下
三十一日二五 梅	同上二四〇〇 P 315 第三十一戰隊電令第二號	行動秘匿ノ為一時反轉二三〇ノ位置直高雄燈台ノ五〇 度八理今ヨリ南下ス尚時々敵機ノ電探觸接ヲ感知ス
三十一日一五五 P 315 鎮樫杉海至 次官(長)P 315 高警57基隆 在勤(武官)	第三十一戰隊電令第二號 當隊電令第一號ニ依ル杉樫ノ夕モ四〇船團護衛最云 杉樫八便宜基隆發四礁山附近ニ於テ七八八船團(セ リヤ丸海ニ五海四九一連力ニ節指揮官海ニ〇五 艦長ニ合同門司追護衛ニ協力セヨ	
三十一日一五四三 夕風	同上二七三五 P 315 高警	第一報 梅後部ニ被彈楓前部被彈一五二〇
三十一日一六五〇 夕風	同上二七四二 P 315 高警	第二報 航行不能夕風梅來員救助中救助艇至急送ヲレ度
三十一日一七二二 夕風	同上二八一 高警	第三報 楓沈没ノ後アリ淺所ニ向テ視界ヲカル

電

無

64

[illegible]

三十一日二二五 南支方面部隊 警戒部隊指 揮官	戸部 警戒部隊指 揮官 才(四)	三十三日(梅) 楓 夕風 當部隊機第ニ九一七五七 番電依り行動中一五三〇項 或息機金鼻ノ南ニ置 附近ニ於テ敵陸上機十數機ト交戦機沈没楓 中破射風輕微ノ損害アリ 在菲航空要員ノ高確輸送ヲ延期ス
三十一日二二五 南支方面部隊 警戒部隊指 揮官	戸部 警戒部隊指 揮官 才(四)	三十三日(梅) 楓 夕風 當部隊機第ニ九一七五七 番電依り行動中一五三〇項 或息機金鼻ノ南ニ置 附近ニ於テ敵陸上機十數機ト交戦機沈没楓 中破射風輕微ノ損害アリ 在菲航空要員ノ高確輸送ヲ延期ス
三十一日二二五 南支方面部隊 警戒部隊指 揮官	戸部 警戒部隊指 揮官 才(四)	三十三日(梅) 楓 夕風 當部隊機第ニ九一七五七 番電依り行動中一五三〇項 或息機金鼻ノ南ニ置 附近ニ於テ敵陸上機十數機ト交戦機沈没楓 中破射風輕微ノ損害アリ 在菲航空要員ノ高確輸送ヲ延期ス
三十一日二二五 南支方面部隊 警戒部隊指 揮官	戸部 警戒部隊指 揮官 才(四)	三十三日(梅) 楓 夕風 當部隊機第ニ九一七五七 番電依り行動中一五三〇項 或息機金鼻ノ南ニ置 附近ニ於テ敵陸上機十數機ト交戦機沈没楓 中破射風輕微ノ損害アリ 在菲航空要員ノ高確輸送ヲ延期ス
三十一日二二五 南支方面部隊 警戒部隊指 揮官	戸部 警戒部隊指 揮官 才(四)	三十三日(梅) 楓 夕風 當部隊機第ニ九一七五七 番電依り行動中一五三〇項 或息機金鼻ノ南ニ置 附近ニ於テ敵陸上機十數機ト交戦機沈没楓 中破射風輕微ノ損害アリ 在菲航空要員ノ高確輸送ヲ延期ス

$$\begin{array}{r} P \quad A \\ 5F \quad 3/J \\ \hline P \quad P \\ \hline GF \quad GF \end{array}$$

豐驅(梅)楓 7 風 9 率 1 三 1 月 0 九 0 0 高 雅 出 藝 手

八
下
丁
才
三
向
航
行
中
一
一
五
項
高
雄
灯
台
二
五

度丁八厘
二
六
一
B
24
二
四
機
P
57
一
四
機
元
見
改
取
手

之
手
退
七
五
二
八
度
二
五

於
敵
B
25
六
機
P
38
六
機
下
之
戰
左
被
宣
言
所
時

本行
の
中
止
ノ
少
ク
干
至
リ

一、被害

(一) 本

直車
子
五
國
相
安
三
三
以
然
船
橋
舟
分
部
切
進
船
分
分

近岸其工幾役拜文長以人而

左二下要頂斗空力意方口力×力上王助冬浸水

萬曆二十一年
二月
一日
余
皮
受
也
力

韓氏七七名內進士官次七名

重慶局有三名（內陸士官一名）

外史事著錄死一五名

輸送隊指
揮官(司令)

(次官次長)

重軽傷者五名(内准士官以上一名)

一番砲後部被弾(主砲輝受)ニ依リ一番砲使用不能一番餅装機銃口飛散船橋下部損壊物大破及第四兵員室ヨリ前方大部区割大破浸水一時大炎トナリタルモ應急操舵ヨリ歸港
戦死約四名(内准士官以上二名)
重軽傷者三名(内准士官以上一名)
外三便乗者戦死八名(内准士官以上二名)
重軽傷者八名

三、夕風
至近海ニ依リ輕微ナル損傷アルモ應急修理可能
見込 重軽傷者二名
二戦果 戦手墜下三機

電

無

0541

日	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八
所在	マ	マ	マ	マ	マ	マ	マ
般任務	西南方面	西南方面	西南方面	西南方面	西南方面	西南方面	西南方面
特別任務	九三三三九 三三三三三 三三三三三 三三三三三	九三三三九 三三三三三 三三三三三 三三三三三	九三三三九 三三三三三 三三三三三 三三三三三	九三三三九 三三三三三 三三三三三 三三三三三	九三三三九 三三三三三 三三三三三 三三三三三	九三三三九 三三三三三 三三三三三 三三三三三	九三三三九 三三三三三 三三三三三 三三三三三
主要行動	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三
主要作業	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三
記事	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三	三三三三三 三三三三三 三三三三三 三三三三三

四 參考 五 作戰經過概要

自昭和十九年十二月二十二日
至昭和二十年一月三十一日
第三戰隊司令部

三十九
三十
三十一
一月
二
三
四
五

一六三〇	サシヤノ	五〇〇	西貢	八〇〇	0800	一二一五三 一一一五七 一六一四六 一五一三三 二七一四三 一九一四〇	香港
------	------	-----	----	-----	------	--	----

隊艦面才西南

家

隊部 南方 西南

隊

7ツヤジ一サ自

衛護丸川田生(樵僧)駁=五

$$7 = 5 \pm 2$$

マツノ着		燃料ヲ補給ス(五〇町)	
三(從)一二三の発 一五〇の西貢着			
三(樞) サンジヤック着 杉樞樞(一三〇サシヤック着)	特種ヲ樞ニ移動ス		
二三馬(檣樞)生田丸 護衛〇七三〇サシヤック 発マシラニ向フ			
三(樞)樞樞〇八〇サシヤック 発高雄ニ向フ			
三(樞)樞樞敵機動部隊 遊艇各一三〇番艦着 三(驅)檣樞(ミラ)発	三(樞)樞樞燃料補給 二五二(驅)檣樞(二四三)ヲ 俄ト支那 六(檣)檣樞二七五航術不能 樞一九一〇軍沈	四三驅至三驅ヲ警戒部隊 ヨリ除キ市ニ編入サル 台灣地区敵機動部隊 空襲ヲ受ク	

十 廿 十 十 十 九 八 七 六
四 三 二 一

石佳

高

$$\frac{0}{0}$$

二
一
三
〇

隊 部 五 第
隊 部 戒 警

[illegible]

十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二
----	----	----	----	----	----	-----	-----

高

隊	艦	五	第	隊	艦	面	方	西	南
隊	部	戒	警	隊	部	面	方	西	南

鶴ニ似テ	人柳杉ニ種風高碓 更港内ニ於テ敵艦上 機部ト交戦獲風沈没 不香港ニテ敵艦ト機 部ト交戦被生口ト 墜テ墜數條						
梅ノ元ニ高碓着	心柳杉四三艇梅高碓 更港内ニ於テ敵艦機部 ト交戦機中破杉小破 艇墜ニ數條						
聖艇(梅)杉七十基 隆ニ同テ高碓毀没							
楓王ニ艇編メサル							
						一トキテ一スニ四ニ依リ海 四ニ沈没	

三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----

音同

隊艦面方西南

隊部面方西南

[illegible]

6541

	三浦風輕敏在旗 心野果輕敏三旗 旗輕敏在旗
(又二)	